

利用形態からみた公開空地の類型と評価に関する研究(その2)

正会員○ 田中 理嗣^{*3}
同 若山 滋^{*1}
同 松村 秀弦^{*2}
同 望月 大輔^{*3}
同 夏目 欣昇^{*3}

【序】 前編(その1)では調査と実験から公開空地の現状を明らかにしたが、本編では、空間構成や建築用途、隣接街路の人の流れ等の都市的性格を考察し、公開空地の特徴を明らかにし、類型化を試みる。

【空間構成の調査】 空地の空間構成を明らかにするために平面及び空地を囲んでいる建築壁面(以下境界面とする)を、図面資料と実測、写真より雰囲気が壊れない程度に模式図化し、その要素を数量化、また付帯物の個数を調査した。隣接する都市空間のうち、街路はその規模、付帯物を調査、実測し、通行者数は公開空地の利用調査と同様な方法で調査した。さらに周囲の都市空間における人の流れや利用形態は観察調査より把握し、建築用途は住宅地図より数量化した。

【空間形態と開放性】 公開空地の外縁を構成し街路空間との境にもなっている境界面を一次境界面、街路を挟んで空地に参加している境界面を二次境界面とすると、図-1のように二次境界面の可視量及び天空率より視覚的開放性を得た。さらにこれと、空地の街路への開口(以下街路開口率とする)より開放性の軸を得た。この開放性と各空間形態との相関が図-2に示すように認められ、街路空間から全く独立した空間形態(独立)、やや開放性があり街路空間からやや独立した空間形態(半独立)、街路空間と連続している空間形態(街路共有)に分類できた。

【隣接空間の都市的性格】 都心商業空間の公開空地の前面街路では100人/15分以上絶え間ない人の流れが認められる。さらにその周囲にも同様な人の流れのネットワークが認められ、回遊性が高い空間であると言える。回遊性が高い空地では下層に商業空間、上層に商業空間か事務空間が位置している。住宅地は10人/15分程度で、商業空間に対し回遊性が低い空間であると言える。都心に近い事務空間や交通拠点に近い郊外の住商混合地区では30~40人/15分程度の流れがあり、回遊性はやや高い空間であると言える(図-3)。

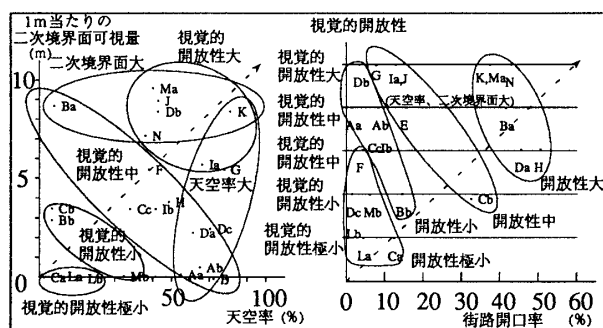


図-1 視覚的開放性、開放-閉鎖性

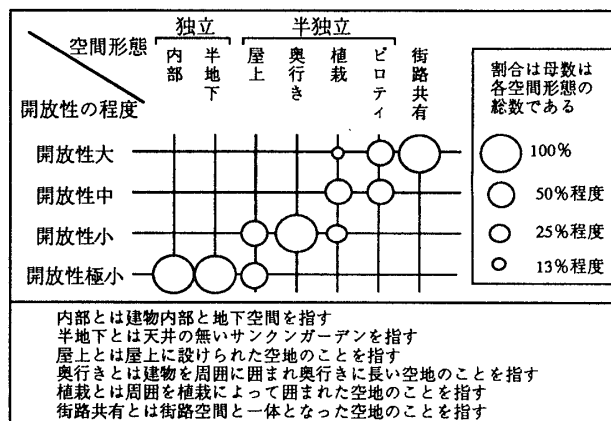


図-2 空間形態と開放性

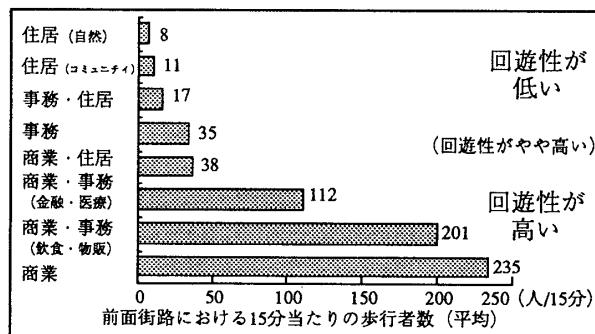


図-3 用途構成と回遊性

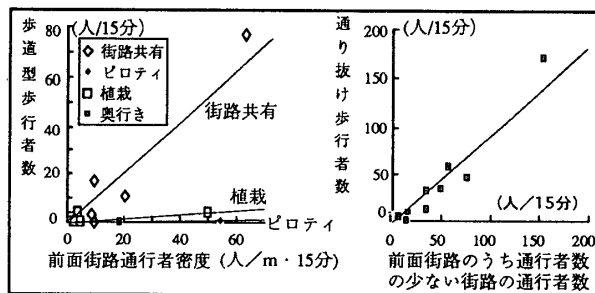


図-4 通行者に関する相関

A study on types and evaluations of public open space
from view point of utilization forms (part 2)

【都市的性格による利用の相違】 歩道型歩行利用度は前面街路の通行者密度と空間形態に相関があり、通り抜け利用度は接する街路のうち人通りの少ない街路の通行者数との相関が認められ(図-4)、通行に関する利用度は街路の人の流れと密接な関係があることが分かる。回遊性が高い空地についてみると、人の流れと接している空地では利用度が高いが、そうでない独立した空地でもイベントや隣接施設との連続性があると利用度が高くなり、多様な利用形態を生んでいる。これらの中でも滞留利用度の高い空地が都市に新しい人の流れを生む効果が認められる。また人の流れの合流点に位置する空地で滞留利用度が増える傾向がある(図-5)。回遊性が低い住宅地においては、子供の遊びを中心としたふれあいの行為の場となっており、通行利用度はあまり高くない。同様な利用形態がみられる公園との相関をみてみると(図-6)、周囲に公園が量的に不足している場合に利用度が高くなる傾向がみられ、また隣接する遊具のある児童公園と広場を提供した空地では、利用者層と遊びの内容から機能の分担がみられた。

【都市的性格による知覚の相違】 明りは、自然光の少ない地下ではほのかな明りで、都心のビルの谷間では天空率が高いと明るいと知覚されているが、郊外の住宅地では天空率が高くて日射がないと明るいと知覚されない。音は、都心では地下や屋上に設置された空地で静かであると知覚されるほか、滝の音が騒音をかき消す役目があるとして良い知覚が得られている。住宅地では時々通る車の音でうるさいと知覚されている。このことから明りや音は周囲の都市的性格によって評価の基準を変える必要があると思われる。

【都市における公開空地の性格類型】 利用、知覚と空間形態、都市的性格との相関より、横軸に開放性を基にした空間形態を、縦軸に回遊性を基にした用途構成をとり、奥行き／間口比と面積から得られた平面形状を加味して図-7のように公開空地を類型化した。

『誘引必要型』は建物内部や街路との高低差により街路歩行者が空地利用しにくいので、空地内に誘引するアメニティ等を必要とする。『商業地多目的型』は回遊性の高い商業地に位置しある程度のまとまりを持った空地であり、利用者も多く利用形態も多様である。『住宅地多目的型』は回遊性の低い住宅地にある空地

で、ある程度のまとまりを持っており、利用度は高くないが、子供の遊びを中心としたふれあいの行為の場となっている。『街路補助型』は開放性、平面形状より街路機能を補助する空地で、通行利用が中心となる。

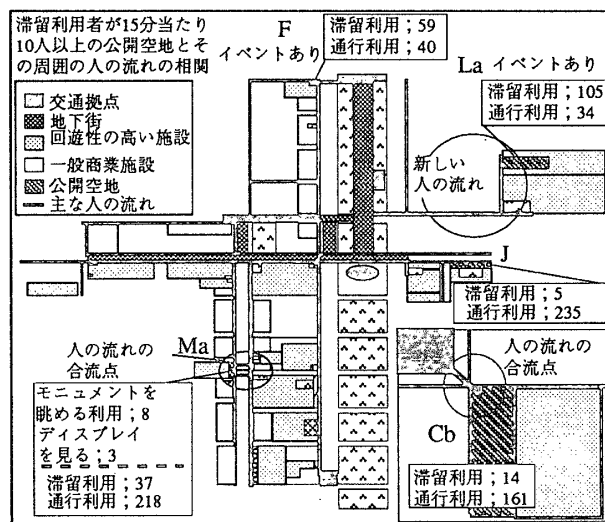


図-5 人の流れと公開空地の相関

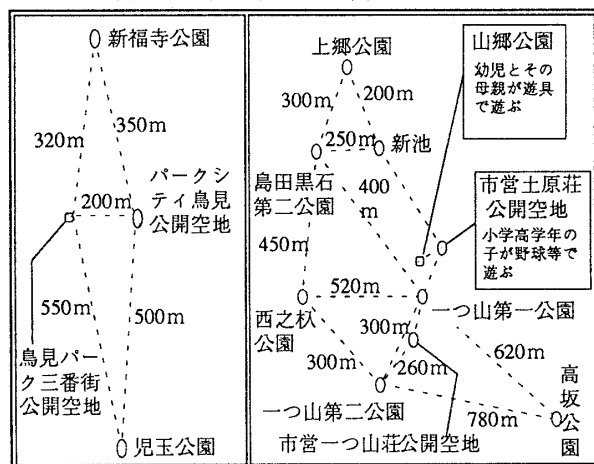


図-6 住宅地の公開空地と周辺の公園の相関

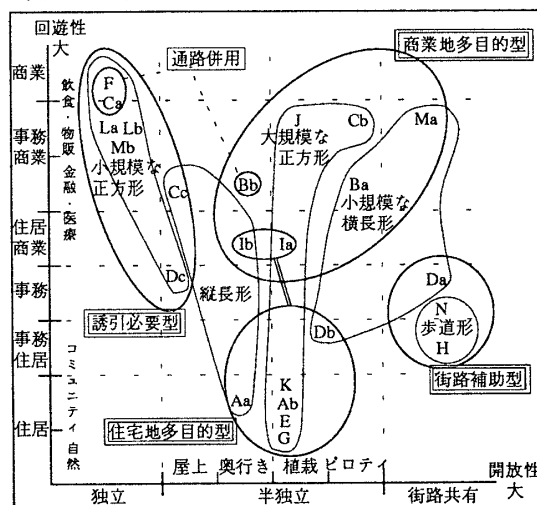


図-7 公開空地の都市的な性格類型

*1 名古屋工業大学教授・博士

*2 住宅都市整備公団・修士 *3 名古屋工業大学大学院